

「春日神社（津田）の秋祭り」を市登録文化財に



色鮮やかな本殿前の大提灯



あかりがとまった拝殿前の大提灯

枚方市は、令和7年3月10日付で、「春日神社（津田）の秋祭り」を市登録文化財に登録しました。毎年10月18日（宵宮）、19日（本宮）に行われる提灯と太鼓に特色を持つ祭りで、無形の民俗文化財として初めての登録となります。

春日神社は、市域東部の中心的村落であった津田村の氏神で、現在の本殿は天明6年（1786）に奈良の春日大社本殿を移築した「春日移し」、末社若宮八幡宮本殿も同年に春日大社末社三十八所神社本殿を移築した「三十八所移し」です。2棟同時に譲り受けたことがわかる貴重な建物であるため、平成23年に市有形文化財に指定しています。

津田の秋祭りといえば「提灯と太鼓」といわれますが、宵宮・本宮に地域の自治組織である7つの「町」が出す大提灯は丈160cmもあり、上輪・下輪に龍と宝珠、雲、波、龍宮城と浦島太郎などの立体的な鍔金具が付き、火袋には献燈の文字、下り藤と三巴紋、鹿と紅葉が色鮮やかに描かれています。本殿前に谷、市場、田中、大谷の各町が1張ずつ、大峰が1対2張の計6張、拝殿入口に横が1対2張、嶽が2対4張の計6張の大提灯を出します。拝殿の軒先には「ほおずき提灯」と呼ぶ丸提灯を、神社前の道路2か所には「南の辻提灯」、「北の辻提灯」と呼ぶ提灯を高さ5mほどのヤグラに掲げます。また、家々の門には家紋を入れた提灯を掲げ、夜になるとムラは提灯のあかりにつつまれます。

江戸時代の津田村の役人日記である「見聞録」によると、天明6年の本殿移築に伴う普請は、安永9年（1780）の拝殿建替に始まり、塀などの整備も行う大工事だったようです。約10年にわたる普請を終えた寛政元年（1789）9月18日、秋祭りの日に村内の若中（若者仲間）から大提灯10張が寄進され、その後も絵馬や狛犬などの奉納が続きました。氏神さまの普請の完成に大喜ぶる人々の姿が目につかぶようです。



今にも飛び出しそうな鍔金具の龍

現存する大提灯がこの時のものかは不明ですが、今も使用している嶽の提灯箱には天保13年（1842）の銘が、横の提灯箱には安政2年（1855）の銘があります。また、谷、市場、大谷、大峰の提灯箱にはすべて文久3年（1863）の銘と、箱蓋の裏に銚金物師・塗師・提灯師（それぞれ同じ名前）の墨書があるため、同時に作ったものと考えられます。田中は平成9年に提灯を修復した際に箱も新調していますが、箱に「文久三年」と書き写していることや銚金具の模様から他町と同時に作ったものと考えられます。提灯一式は境内の蔵で保管し、土用の期間に各町で虫干しを行います。かつては各町長宅で保管し、土用の虫干しと祭りの提灯かけは若中の役割でした。昭和30年頃までは、青年団が提灯の火の番をしていたことが、聞き取り調査からわかっています。

宵宮・本宮の日に、拝殿に据え置く口径87～90cmの大太鼓も社殿造営の際に寄進されたものです。大提灯を寄進した翌年、寛政2年（1790）9月16日に氏子から2尺9寸の太鼓が寄進されたことが「見聞録」に書かれています。平成28年に両面の皮を張替えた際、胴内に「寛政二歳 / 戌九月吉日 / 摂州大坂渡辺村 / 細工人太鼓屋 / 又兵衛（花押）」の墨書が見つかりました。この他、胴内には文政9年（1826）、天保4年、天保14年、弘化4年（1847）の修理歴も書かれており、代々修理をしながら現在まで大切に伝わったものと考えられます。

津田の秋祭りのように、銚金具の付いた大提灯を出す事例は市域ではみられません。江戸時代後期に作ったことがわかる大提灯や大太鼓が現存し、地域の7つの町から提灯を出すという行為も江戸時代から変わらず今に続いている貴重な民俗事例です。

市登録文化財

名 称	種 別	登録年月日
宗左の辻の道標	有形文化財	平成26年4月1日
明治十八年洪水碑		平成26年4月1日
田能村直入関係資料（奥田家旧蔵）		令和6年3月1日
三之宮神社の雨乞返礼の石燈籠	民俗文化財	平成30年9月1日
仁明天皇外祖母贈正一位田口氏之墓	記念物	平成26年4月1日

枚方市では地域の歴史にとって欠くことのできない文化財を保護するとともに、市民への郷土への理解と愛着の増進を図るため、平成25年に市独自の登録制度を制定しています。今回の登録により、枚方市登録文化財は6件となります。

イベント 開催予定

お知らせ

イベント名	開催日
輝きプラザきらら展示ルームで開催しています	
① 文化財展示会「百済王らは朕の外戚なりー百済王氏と枚方ー」	開催中～10/20（月）
総合文化芸術センター別館で開催します	
② 市民歴史講座 「南北朝・室町期の枚方市域」（仮）	8/30（土）
旧田中家銚物民俗資料館で開催します	
③ ちょこっと展「たべる」	7/19（土）～9/28（日）
④ 子ども七宝講座	7/24（木）
⑤ 親子メダル作り	7/26（土）
⑥ はりこでつくろう、まんまるおさかな	8/8（金）～10（日）
⑦ 古文書講座（全4回）	9/19・26、 10/3・10（金）
⑧ パーナーワーク講座（全3回）	9/24、10/1・8（水）
中央図書館で開催します	
⑨ 古文書中級講座（全5回）	10/6・20、11/10、 12/1・15（月）

◆『禁野火薬庫爆発遭難手記 増補版』を 刊行しました

昭和14年3月1日の禁野火薬庫大爆発に遭遇した小野清彦さんの手記や当時の新聞記事をまとめた令和元年刊行版に、爆発時などの写真を巻末に追加掲載しました（1部800円）。

写真は、禁野火薬庫に勤務していた橋寺七郎さんが禁野火薬庫と枚方製造所の境界から撮影したものです。貨車と引込線の様子が確認でき、爆発被害の様子を窺うことができます。



『枚方市史年報』第27号も販売中。吉川真司さん「行基と北河内」、福島克彦さん「中世淀川沿岸における港津の景観について」などを掲載（1部400円。どちらも市史資料室・市役所別館受付で販売中）。